

議会だより

No. 132

苫前郡苫前町字旭 37 番地の 1

【補正予算】

| | | |
|------------|-------------------|----|
| 一般会計 | | |
| 補正額 | 3 億 1,311 万 4 千円 | 追加 |
| 総 額 | 45 億 5,709 万 4 千円 | |
| 介護保険特別会計 | | |
| 補正額 | 13 万 6 千円 | 追加 |
| 総 額 | 4 億 2,535 万 1 千円 | |
| 簡易水道事業特別会計 | | |
| 補正額 | 293 万 7 千円 | 追加 |
| 総 額 | 1 億 6,595 万 8 千円 | |

令和 5 年第 2 回定例会は、6 月 19 日に招集され、会期を 21 日までの 3 日間と決定。
 一般質問は伊藤議員と早川議員の 2 名が行い、町長提出の条例 1 件、予算 3 件、同意 11 件、その他 1 件と議員提出の発議 2 件について審議、全て原案どおり可決し、会期を 1 日残して 20 日に閉会した。

政策予算可決される

【主な補正内容】

- ・ 地域おこし協力隊募集支援業務委託料
- ・ 電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金
- ・ プレミアム地域振興券発行事業補助金
- ・ 道の駅「風Wとままえ」駐車場拡幅工事
- ・ 町営住宅改善工事
- ・ 暖房用燃料購入費等給付金
- ・ 農畜産業経営支援事業補助金
- ・ 古丹別町民広場整備工事
- ・ 北星団地旧教員住宅改修工事
- ・ B&G 海洋センター屋根改修工事

予算特別委員会の設置

委員長 早川 日出利

副委員長 田沢 収

※予算特別委員会は議員全員で構成

物品売買契約の締結

ごみ収集車両 1, 075 万円

(有) 北栄自動車整備工業

農業委員会委員の選任意

【団体推薦】

田井 嘉久 (岩見)

猫島 貴之 (長島)

【地区推薦】

伊藤 芳史 (長島)

向野 晃博 (九重)

成田 晃彦 (九重)

鈴木 弘和 (長島)

大矢 琢弥 (香川)

大西 豊一 (長島)

十亀 一男 (東川)

【一般応募】

能戸 眞吾 (力屋)

大川 博文 (三溪)

※任期は令和 5 年 7 月 20 日から

令和 8 年 7 月 19 日までの 3 年間

一般質問

Q 地域の未来と連動した高校存続へ

A 特色ある学校の情報発信強化



質問

早川議員

6月には6年度の公立高等学校配置計画が示され、苫前商業高等学校は現状維持としているが、地域連携校については再編計画が留保されている場合でも、5月1日現在の第1学年の在籍者数が2年連続10人未満の場合は再編整備を進めるとしている。その場合はどうなるのか再度確認したい。地域連携校は小規模で近隣高校への通学が難しく地元からの進学率が高い高校が基本となっているが、現在の苫前商業高等学校在籍生30人のうちの1割の3人が地元生徒である。そのため地域連携校の扱いからも地元からの進学者を確保していく必要があると考える。北海道教育委員会も、特色ある教育課程の編成や質の高い授業を提供するなど教育活動の充実に取り組み、高校存続に向けた協議

会等に道教委も積極的に参画し、幅広い入学者確保につながるよう計画的に施策を推進し、魅力ある高校づくりに取り組むとしている。今後も道教委・留萌教育局との連携を図っていただきたい。また、学校運営や教育活動に住民が参画する学校運営協議会制度が設置され、より一層の地域とのつながりを強める仕組みができ、学びの機会を多様化し生徒を育てる学校に取り組んでいる。都市部の大規模校でなじめなかつた生徒を受け入れるなど教育の重要な役割も担っている。小規模校では集団活動は難しいが、きめ細やかな指導が可能などのメリットを最大限活用した学校づくり、そして小・中学校各父母との連携を強化し、一時期の学校とは違う今の苫前商業高等学校の良さをもっと知ってもらい、地元進学率向上へ繋げる為に、新たな施策・方策等があれば聞きたい。

高校の存在は地域の未来と連動し、町民にとって地域活性化の役割も担っており、町づくりのパートナーとなる存在である



答弁

開発教育長

と考える。

道教委の公立高校配置計画案では現状維持となっているが、2年連続で10人未満となった場合は再編整備を進めることは変わっていない。来年度の入学者が10人未満となった場合には、他の例に照らすと最短で令和9年度に募集停止が想定され、中学校卒業生の状況など総合的に勘案し道教委が決定するもので私からはお答えできない。地域連携校の位置づけとして、町内からこぞって進学してくるといふ状況にはかなり厳しい実情であるため、地元からの進学者を増やすことを重点課題としている。また従来から実施している通学費補助や検定料補助、部活動遠征費の一部補助、入学支度金など、経済的支援は継続しながら、今後はソフト面での支援

道教委の公立高校配置計画案では現状維持となっているが、2年連続で10人未満となった場合は再編整備を進めることは変わっていない。来年度の入学者が10人未満となった場合には、他の例に照らすと最短で令和9年度に募集停止が想定され、中学校卒業生の状況など総合的に勘案し道教委が決定するもので私からはお答えできない。地域連携校の位置づけとして、町内からこぞって進学してくるといふ状況にはかなり厳しい実情であるため、地元からの進学者を増やすことを重点課題としている。また従来から実施している通学費補助や検定料補助、部活動遠征費の一部補助、入学支度金など、経済的支援は継続しながら、今後はソフト面での支援

を重視していく。地元の高校をよく知ってもらうため本年度の初の試みとして5月22日に高校生が苫前中学校へ出向き、全校生徒・全教職員と希望する保護者を対象に学校説明会を実施。大学進学にも有利なこと、少人数ゆえに最適な個別指導を受けられること、さらに社会に出てから役に立つスキルを身に着けられる点などをプレゼンした。また、新たに実施している地域学は、地域を巻き込んだカリキュラム展開となっており、地域学校協働活動の取り組みと相まって、まちへの愛着を深める機会となっており、アルバイトやボランティアなどに参加し住民の方々と交流する機会が増えている。その他、自転車ツーリング。苦カフェなどは、同校の魅力を高める特色ある取り組みと認識している。さらに教育委員会が一丸となり、学校祭や販売実習会などの学校行事にも積極的に関わり、高校が持つ教育資源を活用した住民対象のパソコン教室やスポーツ行事等高校を知っていただける

仕組みづくりの支援を進める。

これらの取り組みを積極的に地域に発信することで、小中学校生の保護者の皆さんに理解していただけるように努める。道内・道外と広い範囲からの生徒募集活動も引き続き展開していきたい。

札幌市内学校訪問には町長も同行、空知方面には留萌教育局長や幹部職員も同行することになっており、さらには石狩方面では、卒業生と在校生も同席し高校の魅力を生の声でPRにつなげる考えである。町外からの生徒を受け入れるための学生寮若者交流センターについては、男女それぞれの寮棟で、安心して生活し学習に励む居場所として、今後も適切な管理運営にあり、入寮生徒を全面的にバックアップしていく。今後も中学校卒業生とは減少傾向が続いており、安定した生徒確保には厳しい状況にあるが、地域における学校の重要性を訴え続け、存続を諦めることなく手を尽くしていく。

一般質問

Q 苫前町における男女共同参画社会の形成と古丹別地区の活性化対策

A 男女共同参画社会の推進に向けて取り組んでいく町民との対話を重視し古丹別地区の活性化に取り組む



質問

伊藤議員

私は先の統一地方選挙期間中に、あたたかい声援を町民の方からいただいた。その多くが、女性が必要、女性の声が必要だ、女性に頑張って欲しい等の女性に対する要望であり、男女共同参画社会基本法が施行され20年以上経過しているが、未だ性別に対し公平と感じていない町民が多いと私は受け止めた。

以下3点について伺う。

- 1、本町における女性の登用率と今後の展開について
- 2、令和2年4月に策定した苫前町男女参画基本計画の推進について
- 3、現在の所管は住民生活課環境生活係となっているが、機構改革して効率よく推進すべきではないか。

苫前町では、基本計画を推進するためには、町民の皆さんと

行政が一体となって取り組んでいくことが重要と締めくくっているが、現実となるよう推進していただきたい。



答弁

富士町長

- 1、女性の登用率については、役場職員の採用状況は、平成26年度からの10年間で44・7%、令和2年度以降では56・3%である。係長以上の役職では35・3%となっている。

25ある町の付属機関のうち女性が委員任用されている組織は56%で人数では10・3%と低迷傾向にある。

将来的な人材の確保と育成に向けて、団体等に対して女性推薦の配慮を求める。

2、基本計画の推進においては、「男女（とも）につくり支え」とままえのまち」を基本理念に挙げ、3つの基本目標を定め、町民・各事業所・関係団体等と

連携・協働を図りながら施策に取り組んでいるが、十分ではなく、主力産業での管理的職業従事者の女性割合が低い。庁内関係部署と十分協議を図りながら、令和7年からの2次計画の策定に取り組む。

3、機構改革については、北海道においては環境生活部・留萌振興局においては環境生活課が担っていることから、役不足や非効率といったことはなく、事務分掌を見直す考えはない。

質問

伊藤議員

古丹別地区においては、商店の閉店への連鎖、留萌信用金庫移転による大通りの空洞化、中学校の統合、日頃から生徒募集に必死に取り組んでいる関係者の皆さんに敬意を表するが、存続が危ぶまれる苫前商業高等学校など、地域住民には危機感と閉塞感が広まり、明日への希望が持てないとの声も聞こえてきている。

アフターコロナを迎え、早急に古丹別地区の経済活動だけに

限らず、様々な分野の活性化に
取り組む必要があると考える。

この地区を将来どのような町
にしていきたいのか、住民のアイデ
アと想いをお借りして、コロナ
禍で消えてしまったコミュニ
ティの再開に向け、行政主導で
まちづくり懇談会の開催など、
今こそ古丹別地区に手を差し伸
べるべき。

答 弁

富士町長

人口減少は、医療や教育、防
災などの地域における基礎的な
生活条件の確保にも支障をきた
し、その地域で暮らす住民の生
活水準や生産機能の維持が困難
になりうる。「過疎対策」を活用
しながら、様々な対策を講じて
きた。

古丹別地区の人口が千人を割
り込んだこともあり、活性化に
取り組んでいかなければならな
いと、強く感じている。

近年の取り組みでは、農業対
策として穀類乾燥調製施設を整
備・スマート農業の推進をして
きた。商工業対策では、雇用
支援や商業事業新規参入や事業
継承支援。新たな介護事業の誘

致も実現した。さらには、国道

239号線の霧立防災事業、古
丹別川改修工事、苦前厚生クリ
ニック2階を活用した認知症カ
フェの開催。苦前商業高等学校
の存続に向け、全国募集を開始
し、学校・地域・行政が一体となっ
て生徒募集活動に全力で取り組
んでいる。古丹別地区流雪溝の
更新、古丹別市街地を起点とす
る道道苦前小平線の全線開通な
ど引き続き要望する。

アフターコロナを迎え、更な
る活性化対策をこれまで同様に
町民の皆様との対話を重視して、
しっかりと取り組んでいく。



空き地が目立つようになった古丹別地区

予算特別委員会

令和5年度予算 慎重な中でも真剣議論！！

委員長

早川日出利

副委員長

田沢 収

質 伊藤委員

LINE拡張サービス利用
は、時代とともに必要で非常に
便利である一方、本町は高齢者
も多く、指導も大変かと思うが、
いつから使用可能か。また、町
民への周知と指導をどのように
するのか。

常任委員会では車両の購入は、
政策的なこととは違っていたの
で、失念しており、番号なしの
追加説明をしたことはお詫びす
るが、出し忘れていたというこ
とを常任委員会で説明した。

答 加賀谷総合政策室長

10月頃から実証試験の形で一
般住民の皆様にお使いいただ
き、使用状況などを確認、年明
けから正式なサービス提供開始
を考えている。

連絡車のうち1台を廃車にして、
く部分もあるが、5台ある共通

質 間宮委員
高齢者への指導は住民の皆さ
んや各町内会の役員、老人クラ
ブ、社会福祉協議会にもご協力
を仰ぎながら、丁寧な形でやっ
ていきたい。

質 間宮委員
常任委員会での説明では、今
の台数では使うときにその車
がないこともあるので、町長車
専用で使うためにこれを購入し
たいという説明ではなかったか。

質 間宮委員

自動車購入費について、これ
は町長専用車両ではないのか。
財政状況が悪化した時に町長車
は廃止したはずである。

質 小澤副町長
今回、委員会に資料ナンバー
をつけて最初から議案として上
げなかったことについては、お
詫びする。委員会の中で説明を
させていただったので、完全に
遅れたというところまでは思っ
ていなかった。今回はあくまで

答 成川総務財政課長

今年が骨格予算編成であり、
政策的なことや肉付け予算は6
月議会に出すべきとの判断で今
回補正予算として提案した。

も車両の更新ということで委員
会のときも説明している。

答 桧森総務財政課長補佐

町長等、要人を乗せる車両として、各町村に確認した上で車種選定を行った。運用方法は従前と変更ない。

答 富士町長

私だけが乗る車ではなく、あくまで車両の更新である。

質 伊藤委員

古丹別町民広場整備工事について、町が整備する上ではある程度のルールが必要と考える。芝生とウッドチップということ、除雪では大きな重機を入れない、焼き肉やドッグラン等を禁止するなど、ルールづくりが必要ではないかと思うが。

答 本町商工労働観光課長

利用に関して、ルールのなものは必要になると思う。芝生の管理も含めて今後考えたい。

質 村本委員

酪農家は疲弊したような状態で営農はしているが、水田利活用交付金はいっ採択になり、交付金が入るのか情報をお聞きしたい。

今後、本町小学校の複式学級はある程度は増えてくるのは致し方ない現状だが、スクールサポートスタッフの今後の考え方は。

答 宮野農林水産課長

今回円安の影響による資材費の高騰や光熱水費も上昇し、農畜産業経営支援事業として、販売手数料の15%相当を支援する形で制度をつくった。十分ではないが、理解願いたい。

水田利活用交付金は、直近でまだ国のほうから採択の案内が来ていない。

質 開発教育長

スクールサポートスタッフは、教員が今まで行ってきた作業を補佐的にお手伝いするというのが基本的なスタンスであり、複式に対する対応といった部分にあてがうということではない。現員体制で乗り切っていく考えである。

質 村本委員

複式学級の担任として新人の先生ではなかなか難しい部分は現実としてあり、学校全体の教員としてのスタッフの揃え方を検討していくべきではないか。

道や国に対して常時現状を訴え続けていただき、施策としていろんな形でお願いをし、引っ張っていただければと思う。

答 開発教育長

複式学級の運営に当たり、中堅・ベテランなど経験のある方の異動を留萌教育局に申入れをしている。

答 宮野農林水産課長

農業全般大変厳しい状況だと理解している。酪農については町単独で支援し続けるのは限界があり、北海道の会議等ですっかり訴えていきたい。

答 富士町長

国家的な根本的な問題だと思う。留萌開発期成会の中央要望もあり、強く訴える。

委員会 レポート

臨海地域特別委員会

6月6日

●新日本海地域交流センター令和4年度事業報告

大規模改修完了に伴い10月1日より営業再開

医療対策特別委員会

6月6日

●苦前厚生クリニック検査機器更新補助

・フクダ電子

血圧脈波検査装置 319万円

・日本光電送信機 44万円

●苦前厚生クリニック電子カルテ導入及び新型コロナウイルス等検査機器導入補助

・電子カルテシステム

2,707万円

・アボットダイアグノスティクス

154万円

総務産業常任委員会

6月6日
6月7日

●農業水路等長寿命化・防災減災事業

・西古丹別四線揚水機場ポンプ本体の分解整備等

総事業費 1,800万円

町負担 234万円

・西古丹別揚水機場建屋の耐震診断

総事業費 1,000万円

町負担 130万円

● 苫前町穀類乾燥調製施設の修繕

451万円

● 令和4年度ふるさと応援寄附金報告

寄附額 4,001万5千円

寄附件数 3,537件

● 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業

・電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援事業

事業費 1,540万円

事業費 1,140万円

・プレミアム地域振興券発行事業の増額

増額分 717万3千円

● 物価高騰に伴う学校給食費無償化事業

事業費 728万円

● LINEを活用した全ての住民のための持ち運べる町役場事業

事業費 147万円

● 苫前の未来を担うローカルベンチャー創出事業

事業費 992万円

● 脱炭素関連施策の状況

令和5年

3月 新日本海地域交流センター大規模改修における全館LED化

3月 庁内協議を経て計画案を策定

5月 計画案に対するパブリックコメントの実施

今後の予定

6月 計画の策定決定

・北海道ガス株式会社との包括連携協定の締結協定締結日

令和5年6月9日

7月 脱炭素社会づくりワークショップ等の開催

8月 地球温暖化対策実行計画や脱炭素先行地域計画といった関連計画の作成に着手

・町有林人工造林工事における広葉樹の導入、三角点スキー場照明改修工事におけるLED化

● 幸寿園ケアプランセンターシステム更新に対する助成金

町負担額 36万円

● スクールサポートスタッフ配置事業

道教委事業による配置終了後も引き続き町費で配置

事業費 436万円

● 若者交流センターA棟玄関ポーチ改修工事

事業費 203万円

● 社会体育施設の改修工事

事業費 5,699万円

● B&G海洋センター屋根改修工事

事業費 293万円

● 公営企業会計法適用移行

令和6年4月1日からの移行に向けた進捗状況の説明

● 令和5年度簡易水道事業特別会計補正予算

九重地区配水流量計取替修繕

事業費 293万円

● 古丹別町民広場の整備

工事費 462万円

● 道の駅「風Wとままえ」駐車場の拡充

工事費 2,674万円

● 緊急車両の離着陸場として拡幅工事のふわっと駐車場予定地



改修予定の海洋センター屋根



緊急車両の離着陸場として拡幅工事のふわっと駐車場予定地

●町営住宅に係る管理事業及び改善事業の予算補正

町営住宅駐車場屋根改修工事

(新北斗団地)

事業費

223万円

町営住宅電気室鋼製建具取替工事

(新北斗団地)

事業費

170万円

町営住宅改善工事

事業費

2,330万円

北星団地旧教員住宅改修工事

事業費

1,870万円

●令和5年度土木事業の予算補正

町道舗装補修工事

防雪柵補修工事

交通安全施設整備工事

町道横断側溝設置工事

歩道補修工事(3か所)

昭和長島線横断ボックス補修工事

防雪板交換工事

道路照明設置工事(5か所)

●公用車購入事業(町長車)

・町長等要人輸送用車両として

ハイブリット車を購入

車両購入費

450万円

1,620万円

620万円

633万円

445万円

555万円

第2回臨時会

5月9日

・議会議長の選挙

・議会副議長の選挙

・総務産業常任委員の選任

・議会運営委員の選任

・北留萌消防組合議会議員の選挙

・羽幌町外2町村衛生施設組合議会議員の選挙

・監査委員の選任(議会選出)

・臨海地域特別委員会委員の選任

・医療対策特別委員会委員の選任

・議会報発行特別委員会委員の選任

・総務産業常任委員会、臨海地域特別委員会、医療対策特別委員会は議員全員で構成

・繰越明許費繰越計算書

・健康管理システム改修業務委託料

健康管理システム改修業務委託料

121万円

電気柵設置購入費3,890万円

産地生産基盤パワーアップ事業補助金

4億3,200万円

※令和4年度内に支出が終了出来ず

に令和5年度に繰越し

・専決処分報告と承認

○町税条例の一部改正

・国民健康保険税条例の一部改正

・一般会計補正予算(第1号)

料

新型コロナワクチン接種業務委託

751万円 増額

低所得の子育て世帯生活支援特別

給付金

200万円 追加

・物品売買契約の締結

ごみ収集車両(じん芥車)

1,691万3千円

(有)北栄自動車整備工業

鳥獣被害防止総合対策事業(電気柵)

3,843万4千円

るもい農業協同組合苫前支所

議会報発行特別委員会

議会報編集会議 6月7日

・年間の議会報発行時期

・編集レイアウトの骨子

・編集作業内容

議会報編集作業

6月20日

6月21日

7月6日

7月19日

・掲載内容の確認

・レイアウト、編集作業

北海道町村議会議員研修会

開催日 7月4日

場所 札幌市コンベンションセンター

講演 「ウクライナ危機後の世界と日本」

ひょうご震災記念21世紀研究機構

理事長 五百旗頭 真氏

「日本政治の舞台裏」

政治ジャーナリスト 田崎 史郎氏



議員構成



| | | | | |
|--------|--|--|--|--|
| 議席番号 | 4番 | 3番 | 2番 | 1番 |
| 氏名 | 間宮 英明 (76) | 村本 隆 (70) | 早川 日出利 (67) | 磯崎 功 (74) |
| 当選回数 | 9回 | 3回 | 2回 | 3回 |
| 所属委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 総務産業常任委員会副委員長 ・ 羽幌町外2町村衛生施設組合議会議員 ・ 医療対策特別委員会委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員 ・ 臨海地域特別委員会委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会運営委員 ・ 議会報発行特別委員会委員長 ・ 北留萌消防組合議会議員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会運営委員長 ・ 臨海地域特別委員会副委員長 |



| | | | | |
|--------|--|---|---|--|
| 議席番号 | 8番 | 7番 | 6番 | 5番 |
| 氏名 | 阿部 俊一 (70) | 田沢 収 (66) | 伊藤 まち子 (59) | 服部 大輔 (43) |
| 当選回数 | 7回 | 5回 | 3回 | 1回 |
| 所属委員会等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 議長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 副議長 ・ 議会報発行特別委員会副委員長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 総務産業常任委員会委員長 ・ 議会運営委員会副委員長 ・ 議会報発行特別委員会 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療対策特別委員会副委員長 ・ 議会発行特別委員会 |

編集後記

春の統一地方選挙において、新たな議会報発行特別委員会がスタートしました。広報誌に合わせカラーを多く使い、読み易い紙面づくり、そして出来るだけ早めの発行を目指していきたいと思えます。お気づきの点がありましたら遠慮なくご連絡いただきたいと思います。

今年はこちらこちらで笹の花が咲いているのが確認されました。笹の花は60年に一度咲くと言われており、花を付けると枯れてしまいます。笹は地下茎で互いに繋がっているため、一つ開花すると一斉に他の笹も花を付け、同じ時期に帯が枯れてしまいます。昔から笹の花が咲くと、地震や災害などの不吉なことが起こる前兆とも言われますが、あくまで都市伝説であると考えられます。笹の花言葉は「ささやかな幸せ」また「抱擁」ともつけられています。このささやかな幸せを求め、お互いに楽しく過ごし、健康でいつまでも暮らしていける町づくりをみんなの手でつくりあげていきましょう。

文責 早川 日出利